

キリスト教学

概要

担当教員	池田洋子
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	全1年
時間数	90分×15回
単位数	2

キリスト教の成立と発展の源泉は、イエス・キリストの人格と思想である。聖書やDVDなどを使用してイエス・キリストがどのような人物であったのか、どのように生き、どのような教えを伝えたのかを理解する。キリスト教的価値観を学ぶことを通して、自分の価値観に気づき、また、責任ある社会人となるためには、どのように生きたらよいのかを考える。授業始めの立腰やロザリオの祈りなどを通して静かな時を持ち、自分の生き方について振り返る習慣が習得できる。

目標

キリスト教の原点であるイエス・キリストに対する理解を深めることができる。
 旧約聖書・新約聖書に対する理解を深めることができる。
 キリスト教が生み出してきた芸術、音楽や絵画などの知識を深めることができる。
 「建学の精神」を深く理解し、実践することができる。
 長い伝統を持つ祈りを学び、内省する習慣を身につけることができる。

各回の内容

1. キリスト教学を学ぶ意味：建学の精神
2. 創立者聖マルグリット・ブルジョワの生き方
3. 宗教と芸術
4. 教会について
5. 旧約聖書について
6. 新約聖書について
7. イエスの生きた時代
8. クリスマスの意味
9. イエスの誕生
10. イエスの教え(山上の教え)
11. イエスの教え(最も重要な教え)
12. イエスの奇跡物語
13. イエスの受難物語
14. イエスの復活物語
15. 振り返りとまとめ

準備学習（予習・復習等）

予習：授業で指示された範囲の聖書・資料などを読んでおくこと。

復習：授業で学んだ資料プリント・聖書などを整理し、レポートにまとめておくこと。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

課題レポート50%、リアクションペーパー30%、授業参加態度20%

教科書

『新共同訳聖書』日本聖書協会

参考文献

授業時に提示する。

福祉学（ボランティアワーク）

概要

担当教員	築田・齋藤・池田・狩野
授業形態	講義
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	全1年
時間数	講義15時間・実習30時間
単位数	2

建学の精神に基づき、「愛と奉仕」「共に生きる」を具現化し、社会の中で価値ある自分として生きる基礎を学ぶ。オフキャンパスプログラムであるため、授業7回に加えて、地域社会に出て30時間以上のボランティア活動を行う。自己を見つめ、地域社会の課題に気づき、時代の要求に応えるような新しい地域共同体をどのようにしたら創り出すことができるかを学ぶ。

目標

地域社会や地域貢献への理解が深まり、他者と共に生きる社会構成員としての責任感を習得できる。
 学生の多様な物の見方を促し、ボランティア活動への関心を高めることができる。
 「就業力」に結びつく質の高いボランティア活動を体験できる。
 学生たちのスキルが高まり、資格(栄養士・幼稚園教諭・保育士など)取得の一助となる。

各回の内容

1. ガイダンス 4月12日(金)(担当:築田・齋藤・池田・狩野)
2. ボランティア活動の意味(講話:福島県社会福祉協議会)5月24日(金)
3. 子ども食堂の活動(講話:たべまな)5月31日(金)
4. 子ども・若者支援の活動(講話:ビーンズふくしま)講話:6月7日(金)
5. 「かけがえのない人」を亡くした人への支援活動(講話:りんく) 6月28日(金)
6. 青年海外協力隊の活動(講話:JICA) 7月12日(金)
7. ボランティア活動
8. ボランティア活動
9. ボランティア活動
10. ボランティア活動
11. ボランティア活動
12. ボランティア活動
13. ボランティア活動
14. ボランティア活動
15. ボランティアという生き方(講話:ルワンダの教育を考える会)平成32年1月17日(金)

準備学習(予習・復習等)

ボランティアとしての活動内容は一律のものではないため、実状に応じた対応が求められる。
 ボランティア案内の掲示に従い、ボランティアセンターを活用して、ボランティアの目的、場所や時間、内容について、事前に調べ必要に応じて、ボランティアセンター窓口相談する。実施後は、簡略な記録を各自残し、最終課題(レポート)に備える。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

ボランティア活動実績報告書とボランティア活動レポート80%、授業参加振り返りシートによる評価20%

教科書

なし

参考文献

図書館に関連図書多数

国際ボランティア

概要

桜の聖母学院のルーツを辿り、「建学の精神」について理解を深める。また、国際化が進む中で人々の交流やボランティアも国際的なレベルでの活動を行う。この科目では、姉妹校で英語を学び、現地の人々と交流をし、国際的レベルでのボランティアの基本を学び、体験する機会を持つ。講義8回、そして演習としてカナダを訪問する。

担当教員	堺 秋彦 築田 美抄
授業形態	講義 演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	全学生
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

桜の聖母学院のルーツを辿り、「建学の精神」を深く理解することができる。
英語を学び、訪問地でそれを実際に使う体験をすることができる。
国際的なボランティア活動を体験することができる。
現地で暮らす人々と交流し、多文化に触れる機会を持つことができる。
自分にチャレンジするチャンスを持つことができる。

各回の内容

1. オリエンテーション

2. 人々と「共に生きる」精神とは何かを考える

3. カナダの風土・文化・歴史について理解を深める

4. 建学の精神および創立者について理解を深める

5. カナダ研修の準備

6. カナダ研修の準備

7. カナダ研修の準備

8. カナダ研修の準備

9. 海外研修

10. 海外研修

11. 海外研修

12. 海外研修

13. 海外研修

14. 海外研修

15. 海外研修

準備学習（予習・復習等）

配布された資料プリントをよく読む。

カナダ（モントリオール、キングストン、トロント）について、インターネット等を利用して、情報を収集する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

レポート（プレゼン） 30% 授業参加態度 20% ボランティア遂行意欲・態度50%

教科書

なし

参考文献

授業時に提示する。

福島学

概要

福島学では、地元学としての意義を基礎に置きつつも、福島県の現状に立ち、最重要課題が地域の復興、再生であることを認識し、福島県の産業や暮らしの現状と課題について学ぶ。東日本大震災の爪痕や原子力発電所事故の現状を視察によって学び、復興のために尽力する人々との出会いによって、学生自らが気づきや感動を得て、主体的なかわりを創造していく。

担当教員	三瓶・山下・岩井ほか
授業形態	講義
学期	通年
必修・選択の別	選択
対象学生	1、2年
時間数	90分×15回相当
単位数	2

目標

学生自らが、主体的に「復興」を考えるとともに、学生の力で地域に貢献し、地域の復興を支援する。被災地を視察することで当事者性が育ち、学生自身の将来と福島県をはじめとする東北の復興を自らの課題にできる。その意識が社会人基礎力を育て、主体的に生きる力がつく。

各回の内容

1.	4月19日	イントロダクション	なぜ「福島学」を学ぶのか
2.	5月10日	5限目	フィールドワークとは何か。～その視点と重要性～
3.	5月25日	丸1日	フィールドワーク コミュタン福島への視察～3.11後の福島を学ぶ～
4.	5月25日	丸1日	フィールドワーク コミュタン福島への視察～3.11後の福島を学ぶ～
5.	5月25日	丸1日	フィールドワーク コミュタン福島への視察～3.11後の福島を学ぶ～
6.	6月21日		南相馬市の現状について（南相馬市職員からの解説）
7.	7月13日	丸1日	フィールドワーク 南相馬の視察
8.	7月13日	丸1日	フィールドワーク 南相馬の視察
9.	7月13日	丸1日	フィールドワーク 南相馬の視察
10.	8月2日	5限目	フィールドワークの振り返り～私たちでできることとは～
11.	10月11日	5限目	海外へ「福島」を届けようプロジェクト
12.	10月25日	5限目	海外へ「福島」を届けようプロジェクト
13.	11月22日	5限目	海外へ「福島」を届けようプロジェクト
14.	12月13日	5限目	海外へ「福島」を届けようプロジェクト
15.	12月20日	5限目	地域を学ぶ意味～まとめワーク～

準備学習（予習・復習等）

<予習>

ニュースや新聞、雑誌などの報道などを通して、福島県の現状を把握しておくこと。
また人口推移や地方創生など、現在、地方が抱える社会問題などをまとめておくこと。

<復習>

毎回その講義を受けた後に、その日にテーマになった内容についてを調べ、考察し、自らのコメントを書くこと。（次回の授業時に提出）

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

授業や視察における振り返りシートやレポートの記述80%

授業や視察における積極的な姿勢20%（予習・復習の姿勢、質問への積極性などを含む）

教科書

指定しない 必要な資料などは準備して配布する

参考文献

池田清彦・養老孟司『ほんとうの復興』（新潮社、2011年）

室崎益輝ほか『震災復興の論点』（新日本出版社、2011年）

関満博『東日本大震災と地域産業復興』～（新評論、2012年）

朝日新聞特別報道部編『プロメテウスの罠』1～9（学研パブリッシング、2013年）

桜の聖母短期大学『「福島学」から「移動文化祭」までの道のり～学生が編み出した復興支援プロジェクト～』（ACF福島学シリーズ6）（アカデ

ミア・コンソーシアムふくしま、2013年）

開沼博『はじめての福島学』（イースト・プレス、2015年）

川口マーン恵美『復興の日本人論 誰も書かなかった福島』（グッドブックス、2017年）

一ノ瀬正樹・早野龍五・中川恵一編『福島はあなた自身 災害と復興を見つめて』（福島民報社、2018年）

国際平和論

概要

集中講義と沖縄研修によって学びを深める科目である。集中授業では、戦争につき基礎知識を学び、その中からテーマを決めてグループ研究をする。講義の学びをふまえて、3泊4日の沖縄研修に参加し、沖縄戦跡や沖縄の文化に触れことで理解を深める。沖縄研修では研修団の一員として学生が主体的に行動・進行し自主的に学んでいく。
*本科目では沖縄研修への参加が履修条件となる。

担当教員	元井貴子
授業形態	講義
学期	後期集中
必修・選択の別	選択
対象学生	1、2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

世界には紛争や対立によって、欠乏と貧困にあえぐ人々がいることを知り、世界平和について考えることができる。人類の戦争の歴史を振り返り、国際平和の実現のためにどのような取り組みがなされたいのか、何が壁になっているのかについて理解することができる。そのうえで、平和のためにできることを各自考察することができる。また、沖縄の文化を体験することで、異なる文化への理解を深め、異文化間の協調及び相互理解による平和の実現についても考察することができる。

更に、グループ研究及び沖縄研修を通じて全員が積極的に協力し合い自己の役割と研修の目的を全うすることができる。

各回の内容

1. 戦争とは何か（第2次世界大戦について）
2. 沖縄戦と人々の命
3. テーマ学習指導
4. テーマ別研究
5. テーマ別研究
6. 沖縄研修
7. 沖縄研修
8. 沖縄研修
9. 沖縄研修
10. 沖縄研修
11. 沖縄研修
12. 沖縄研修
13. 沖縄研修
14. 沖縄研修
15. 研修のまとめ

準備学習（予習・復習等）

平和論、沖縄問題などに関する書籍、ニュース等に積極的に触れ、関心を高めること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

グループ別研究に関する課題40%、事前講義及び研修中における貢献度20% 研修後のレポート40% による総合評価

教科書

なし 資料を配布する

参考文献

授業時に紹介する

哲学

概要

この授業では、普段当たり前のこととして見過ごされている身の回りの物事についてあらためて疑問に思い、問いを深めることで、哲学の伝統的な問題へと開かれることを目標とする。前半は、私たちが日常でもふと疑問に思ういくつかの素朴な主題を取り上げ、また、映画や衣服に見て取れる思想や意味に触れ、それらの議論を通して、「考える」という行為に慣れてもらう。後半では、私たちの日々の行動を手がかりに、その哲学的な意味を知り、各哲学者の基本的な思想を学んでゆく。最後に、講義全体を通して、「知る」ことよりも「考える」ことを重視する。

担当教員	小原 拓磨
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	1,2年合同
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

答えのない問題について思考することで、発想の自由と責任を自覚できるようになる。
 映画や衣服といった日常の物事について哲学的に考えることで、これまでとは違った観点で見られるようになる。
 西洋哲学の歴史における何人かの哲学者とその思想を知ることができる。
 学んだ哲学者の考え方をもとに、身の周りや自分自身のことについて、自分で考えられるようになる。
 物事の様々な側面と価値観を知り、多様性社会（「人それぞれ」社会）を生きるための思想的柔軟性をもつことができる。

各回の内容

1. オリエンテーション：「子どもの問い」を考える
2. 自己と他者
3. 自由と幸福
4. 友情と愛情
5. 「人それぞれ」のホントとウソ
6. 『もののけ姫』と宮崎駿の自然観
7. ひとの仮面と素顔
8. ファッションの現象学（1）ひとはなぜ服を着るのか？
9. ファッションの現象学（2）化粧のコスモロジー
10. 目覚め デカルト、キリスト教、ヘーゲル
11. 仕事 マルクス、ヴェーバー
12. ショッピング ラカン
13. 家族と食事 フロイト
14. 料理 レヴィ=ストロース
15. 睡眠と夢 ユング
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

予習：配布される資料をあらかじめ読み、そこで論じられる主題について自分なりにポイントをまとめ、また、分からない点を明確にしておく。
 復習：授業で関心をもった主題について、紹介する参考文献を図書館等で入手し、各自でさらに考察する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

学期末に行う論述式試験（70％）と、不定期で実施するリアクションペーパー（30％）の記述内容で評価。
 試験の解説等は、試験の形式上各自で回答が異なるため、希望する者にかぎって個別で応じる。

教科書

なし。毎回、資料を配布。

参考文献

そのつど紹介。

心理学

概要

人間観の変遷、ヒトの感覚と知覚、社会的行動、ライフサイクル、臨床心理学とこころの健康、性格と人格、ストレスコーピングスキル、等について概説する。また、少人数によるグループワークも積極的に取り入れていく。

担当教員	後藤真
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	全学生
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

心理学全般についての基礎的知識を身につける。また、心理学の知見に基づき、こころの複雑な働きに対する興味・関心を培うと共に、自らの日常生活に密接した諸問題を心理学的に捉えることができる。

各回の内容

1. 導入
2. 社会の中の自己
3. 人間観の変遷と心理学の発展
4. 感覚・知覚の心理
5. 記憶のメカニズム：効果的な学習
6. 発達理論と発達段階
7. 自己概念と自尊感情
8. ライフサイクルにおける大学生期
9. ライフサイクルにおける大学生期
10. 行動心理：他者の存在とコミュニケーション
11. ストレス
12. 「癒し」と心理療法
13. ルーツとしての家族
14. ツールとしてのsystemic approach
15. 自己洞察と他者理解の心理

準備学習（予習・復習等）

予習：各回授業で予習すべき内容（重要語句や心理学に関連する記事等）について指示する。

復習：授業で取り上げた内容について各自復習することを基本とするが、必要に応じてレポートの作成および提出を求める。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

授業レビューシート40%、中間レポート30%、期末レポート30%

教科書

授業時に紹介する

参考文献

上田紀行『生きる意味』岩波新書（新赤版931）

心理学（CE）

概要

心理学は、人間を理解する基礎学問のひとつとして、「行動の科学」と位置付けられている。つまり、狭義の「心」のみが対象ではなく、人間の行動全体が、関心の対象となっている学問である。本講義では、心の3要素である「知・情・意」を理解した上で、そこから展開する人間の行動に関する専門分野をいくつか取り上げる。

担当教員	築田美抄
授業形態	単独
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	
時間数	
単位数	2

目標

「心」に関する学問的知見を正しく理解し、「心」に対する専門的関心を高める。
心理学の学びを通して、人間の行動に対する理解と気づきの視点を養い、人間を取り巻くさまざまな現象を考察できる力を身につける。

各回の内容

1. 「心」とは何？
2. 「心」に関する学問の歴史
3. 感覚－五感とその不思議－
4. 知覚－物事を認識する働き－
5. 記憶－覚えるプロセスと性質－
6. 学習－「できるようになること」「できなくなること」-
7. 感情と情動－「気持ち」の種類－
8. 動機づけ－「やる気」のメカニズム－
9. 心理学の専門分野－臨床心理学 「無意識」とは
10. 心理学の専門分野－臨床心理学 「錯誤行為」
11. 心理学の専門分野－臨床心理学 「夢」
12. 心理学の専門分野－臨床心理学 「心の不調」
13. 心理学の専門分野－発達心理学
14. 心理学の専門分野－社会心理学
15. 現代社会における心理学的話題
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

都度、次回の講義に関して、下調べをしておく内容を指示する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

試験 70%
毎回の感想文 30%

教科書

使用しない

参考文献

都度、必要に応じて紹介する。

経済学

概要

経済学の基礎理論を習得し、社会で起こっている様々な出来事を理解するために活用できるよう講義を行う。

担当教員	山野実
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	全1、2年生
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

経済学の基礎理論を習得することにより、経済に関係する様々な出来事や政府の政策をより深く理解する力を身につける。

各回の内容

1. 経済学の主要概念・考え方
2. ミクロ経済学（1）
3. ミクロ経済学（2）
4. ミクロ経済学（3）
5. ミクロ経済学（4）
6. ミクロ経済学（5）
7. ミクロ経済学（6）
8. ミクロ経済学（7）
9. ケーススタディ（現実の出来事・政策を経済学で考える）（1）
10. マクロ経済学（1）
11. マクロ経済学（2）
12. マクロ経済学（3）
13. マクロ経済学（4）
14. マクロ経済学（5）
15. ケーススタディ（現実の出来事・政策を経済学で考える）（2）
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

各回の授業の最後に予習内容を示す。

授業で取り上げた内容について各自復習することを基本とするが、確認テストを4回実施する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

試験60%、 確認テスト40%、いずれも採点后に返却する

教科書

必要に応じ、レジュメや資料を配布する。

参考文献

スティグリッツ（2012）『入門経済学』（藪下史郎他訳）東洋経済新報社

法学

概要

法律は日本のルールであるため、社会人になるにあたって基本的法知識の習得は必須のものと言える。しかし、法律は量が膨大であるため、本講義では、社会に出ていく女性として必ず習得してほしい法知識（法律用語及び制度）を厳選し、講義する。日常生活との関りが深い民事法を扱う（民法を中心にして借地借家法や会社法も学ぶ）。また、講義を聴くだけでなく、イメージしやすい事例を使い、グループディスカッションで議論することを通じて法的な思考方法を学び、問題意識や他人の意見を理解しつつ自分の意見を構築するプロセスも体験する。

担当教員	元井 貴子
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	全学生
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

- ・社会に出て行く女性として知っておくべき法律知識（基本的な法律用語及び制度）を習得できる
- ・法律問題に直面したときに事実を正しく把握した上で、学んだ知識を使って妥当な結論を導き出す応用力を身につけることができる
- ・法律上の争点につき自分で考え、意見を構築することができる

各回の内容

1. 国内の法律概要
2. 民法総則：瑕疵ある意思表示及び意思の欠缺～言ったことを取り消したい時の法律～
3. 民法総則：成年後見制度と失踪宣告制度～未成年者や高齢者を守る法律～
4. 契約法：賃貸借契約と借地借家法～部屋を借りる時の法律～
5. 契約法：消費貸借契約 / 物権法：抵当権（抵当権とは何か）～家を買う時の法律～
6. 物権法：抵当権（抵当権の実行・一括競売等）～競売される時の法律～
7. 契約法：契約解除と損害賠償～相手が契約を守ってくれない時の法律～
8. 不法行為：損害賠償・過失相殺・使用者責任～事故にあった時の法律～
9. 保証法：保証契約～保証人になる時の法律～
10. 家族法：婚姻～結婚・離婚する時の法律～
11. 家族法：嫡出推定・養子～親子に関する法律～
12. 家族法：相続 法定相続～相続人は誰か～
13. 家族法：相続 遺言・遺留分～誰がどの位相続するのか～
14. 会社法：株式・株主～株式会社とは～
15. 会社法：会社の機関・取締役の義務～株式会社のしくみと社長の責任～
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

- ・講義した範囲につき資料・ノートを読み直すこと
- ・重要である旨明示した用語及び争点につき自分の言葉で説明できるかを確認した上で、記憶すること

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

筆記試験 40%、確認テスト 30%、講義への貢献度（グループディスカッション実施報告書）15%、リアクションペーパー 15%

教科書

なし

参考文献

その都度、授業で紹介する

日本国憲法

概要

憲法は私たちの国の基本となる法であると同時に、近年では、憲法改正等も議論されているため、深い理解が求められている。そこで、覚えてほしい基本的用語から、重要な条文や制度が、どのような意義や趣旨に基づくのか、という点に至るまで深く講義していく。

また、憲法上の問題については具体的な事案につき検討する機会を設け、自分なりの答えを導き出すワーク等も実施する。更に、講義内容を現実の問題としてイメージできるように、関連する時事問題にもできるだけ触れていく。

担当教員	元井 貴子
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	全1,2年生
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

- ・日本国憲法の基本原則及び各制度とその趣旨を理解できるようになる
- ・憲法上の争点につき、何が問題となっており、どのような議論があり、どのような意見があるのかを理解し、自分なりの考えを持つことができる
- ・法的思考力を養い、新しい問題に直面した時に問題の所在を把握し、論理的に考えて妥当な結論を導くことが出来るようになる

各回の内容

1. 日本国憲法の基本原理
2. 基本的人権 享有主体性
3. 基本的人権 幸福追求権
4. 基本的人権 法の下での平等
5. 基本的人権 信教の自由と政教分離
6. 基本的人権 表現の自由
7. 基本的人権 経済的自由
8. 基本的人権 人身の自由
9. 基本的人権 社会権
10. 統治機構 国民主権と選挙
11. 統治機構 国会
12. 統治機構 内閣
13. 統治機構 内閣
14. 統治機構 裁判所
15. 平和主義
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

- ・講義した範囲につきテキスト・資料・ノートを読み直すこと
- ・重要である旨明示した用語及び争点につき自分の言葉で説明できるかを確認した上で、記憶すること

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

- ・筆記試験40%、確認テスト30%、グループワーク実施報告書15%、リアクションペーパー15%
(確認テストの解答・解説は解答用紙回収後に実施する。試験の解答・解説は掲示する。)

教科書

吉田仁美著『スタート憲法（第2版補訂版）』成文堂 2016年3月20日発行

参考文献

その都度、授業で紹介する

教育原理

概要

教育の理念、思想、制度、歴史（西洋と日本）などの広い領域から教育学の基礎的知識と現代社会における教育動向を学ぶ。またグローバル社会における視点から諸外国の教育動向なども学ぶ。それに基づいて、現代社会における教育をめぐる改革、諸問題について批判的に考察する。

担当教員	三瓶千香子
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	キャリア教養学科・食物栄養専攻
時間数	15
単位数	2

目標

- ・教育の理念・歴史・思想を学ぶことにより、学校、家庭、社会にかかわるさまざまな教育と人間形成の問題に取り組むうえで重視すべき原理を習得できる。
- ・教育における原理の習得を踏まえて、教育に関する高度で専門的な知識と有機的に関連づけ、深化できる準備ができる。
- ・自らの個人的な体験に基づく教育観や限定的な教育論を相対化し、教育的な原理を普遍化し、現代社会における教育問題を批判的に考察することができる。

各回の内容

1. 教育における理念と目的
2. 発達と教育
3. 「子どもの発見」から子ども観の変遷
4. 西洋における近代の教育史
5. ルソー「エミール」に見られる教育観
6. ベスタロッチ・フレーベルの教育思想
7. 我が国における近代教育思想～学制を中心に～
8. 国家による教育と戦後教育改革
9. 学校制度と関係法令～「学校」史と現代教育行政～
10. 学校運営と学級経営
11. グローバル社会における教育動向～PISAが与えた影響～
12. 教えの過剰と主体性～教育改革とアクティブラーニング～
13. 教育と階層格差～教育の再生産機能について考える
14. 学校開放と学校安全～学校保健安全法とこれから～
15. 生きる力と生涯学習社会～地域の中の学校とは～
16. 定期試験

準備学習（予習・復習等）

- ・新聞またはニュースで教育関連の記事を探しだし、毎週、持参すること。
- ・与えられた課題・テーマについて、事前に予習すること（振り返りシートに記入が必要になります。）

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

プレゼンテーションの内容と態度20%、授業後のフィードバックシートにおける理解度と意見30%、論述試験50%

教科書

『よくわかる教育原理』（汐見稔幸・伊藤毅・高田文子・東宏行・増田修治編 ミネルヴァ書房、2011年。）

参考文献

- ・『教育思想史』（今井康雄編、有斐閣、2009年）
- ・『教養の教育学』（森川輝紀、三元社、2015年）
- ・『教育の思想と原理 - 良き教師を目指すために学ぶ重要なことがら -』（樋口聡・山内規嗣協同出版、2012年）など。
- ・その他、今日的な教育動向についてはその都度、新聞や資料を配布する。

教育原理

概要

教育の理念、思想、制度、歴史（西洋と日本）などの広い領域から教育学の基礎的知識と現代社会における教育動向を学ぶ。またグローバル社会における視点から諸外国の教育動向なども学ぶ。それに基づいて、現代社会における教育をめぐる改革、諸問題について批判的に考察する。

担当教員	三瓶千香子
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース
時間数	15
単位数	2

目標

- ・教育の理念・歴史・思想を学ぶことにより、学校、家庭、社会にかかわるさまざまな教育と人間形成の問題に取り組むうえで重視すべき原理を習得できる。
- ・教育における原理の習得を踏まえて、教育に関する高度で専門的な知識と有機的に関連づけ、深化できる準備ができる。
- ・自らの個人的な体験に基づく教育観や限定的な教育論を相対化し、教育的な原理を普遍化し、現代社会における教育問題を批判的に考察することができる。

各回の内容

1. 教育における理念と目的
2. 発達と教育
3. 「子どもの発見」から子ども観の変遷
4. 西洋における近代の教育史
5. ルソー「エミール」に見られる教育観
6. ペスタロッチ・フレーベルの教育思想
7. 我が国における近代教育思想～学制を中心に～
8. 国家による教育と戦後教育改革
9. 学校制度と関係法令～「学校」史と現代教育行政～
10. 学校運営と学級経営
11. グローバル社会における教育動向～PISAが与えた影響～
12. 教えの過剰と主体性～教育改革とアクティブラーニング～
13. 教育と階層格差～教育の再生産機能について考える
14. 学校開放と学校安全～学校保健安全法とこれから～
15. 生きる力と生涯学習社会～地域の中の学校とは～
16. 定期試験

準備学習（予習・復習等）

- ・新聞またはニュースで教育関連の記事を探しだし、毎週、持参すること。
- ・与えられた課題・テーマについて、事前に予習すること（振り返りシートに記入が必要になります。）

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

プレゼンテーションの内容と態度20%、授業後のフィードバックシートにおける理解度と意見30%、論述試験50%

教科書

『よくわかる教育原理』（汐見稔幸・伊藤毅・高田文子・東宏行・増田修治編 ミネルヴァ書房、2011年。）

参考文献

- ・『教育思想史』（今井康雄編、有斐閣、2009年）
- ・『教養の教育学』（森川輝紀、三元社、2015年）
- ・『教育の思想と原理 - 良き教師を目指すために学ぶ重要なことがら -』（樋口聡・山内規嗣協同出版、2012年）など。
- ・その他、今日的な教育動向についてはその都度、新聞や資料を配布する。

英語

概要

This is a skills-based course with a level of TOEIC 300 (英検 3 級). Input will be focused on reading skills and vocabulary. In-class output will be done in groups while covering a wide variety of topics. This class will be conducted all in English.

担当教員	藤平明彦アンドリュー
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分 × 15回
単位数	2

目標

Students will develop their English comprehension.
 Students will increase their English vocabulary.
 Students will create works of English in groups.

各回の内容

1. Introduction
2. April Fools' Day
3. Clever Pigs
4. Split the Bill
5. Disney's Dream
6. Compact Lifestyles
7. Ryo Ishikawa: Record Breaker
8. Midterm Review
9. Unusual Pets
10. Staying in Touch
11. Pet Passports
12. Tying the Knot at McDonald's
13. The Oscars
14. Unique Names
15. Final Review
16. Final Class

準備学習（予習・復習等）

（予習） Read and listen to the text, answer the textbook questions, study the vocabulary.
 （復習） Review the answers to the text and the in-class activity.

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

Midterm Review 20%, Final Review 20%,
 E-learning 20%, Vocabulary Quizzes 15%,
 Textbook Homework 15%, Participation 10%

教科書

『Prism red Second Edition』 Macmillan Language House

参考文献

英語

概要

1. 英語および英語でのコミュニケーション能力の向上を図る。
2. 食物栄養に関する簡単な英語を学び、使う事を通して英語の総合能力を向上させる。
3. 簡単な英語で世界や日本の料理や食文化を紹介する。

担当教員	佐藤純子
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	食物栄養専攻1年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

1. 簡単な英語でコミュニケーションができる。
2. 料理、栄養にかんする簡単な英語が理解できる。
3. 簡単な英語で世界の料理や食文化について理解したり紹介したりできる。
4. 簡単な英語で日本の料理や食文化を説明できる。

各回の内容

1. オリエンテーション、restaurant, dishes
2. restaurant, dishes
3. 世界の料理
4. 世界の料理
5. 世界の料理
6. レシピreading
7. レシピreading
8. レシピreading / 小テスト
9. 世界の行事と料理
10. 世界の行事と料理
11. ダイエット、サプリと栄養
12. 日本の料理紹介
13. 日本の料理紹介
14. 日本の料理紹介
15. 日本の料理紹介：発表
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

授業の予習（単語やフレーズ、和訳など）、授業の復習（単語やフレーズなど）

試験、小テストの準備

発表、課題の準備

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

小テスト 30%、課題 20%、試験 30%

日常点（授業への参加度、リアクションペーパーなど）20%

教科書

なし

参考文献

その都度授業で紹介する。

英語

概要

- 1.英語および英語でのコミュニケーション能力の向上を図る。
- 2.保育に関する簡単な英語を学ぶ。
- 3.簡単な英語の歌や手遊びを習得する。

担当教員	佐藤純子
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

- 1.保育の現場において簡単な英語でコミュニケーションができる。
- 2.保育に関する英語が理解できる。
- 3.簡単な英語の歌や手遊びができる。

各回の内容

1. オリエンテーション、あいさつ
2. あいさつ
3. song The alphabet song
4. song The alphabet song
5. song Bingo
6. song Bingo
7. song Head, shoulders and knees
8. 小テスト / 課題発表
9. song Old McDonald had a farm
10. song Old McDonald had a farm
11. song Inchy wincey spider
12. song Inchy wincey spider
13. song If you're happy
14. song If you're happy
15. まとめ、発表
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

授業の予習（単語やフレーズ、和訳など）、授業の復習（単語やフレーズなど）

試験、小テストの準備

発表、課題の準備

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

小テスト30%、課題20%、試験30%

日常点（授業への参加度、リアクションペーパーなど）20%

教科書

Pamela Conn Beall他著 Wee Sing Children's Song and Fingerplays (Price Stern Sloan) 2005

参考文献

その都度授業で紹介する

英語

概要

編入試験および各種英語試験合格を目標に、英文読解に必要な力を養成する。
260語～300語の英文を扱いながら、読解に必要な基本的な文法および読解力をつけていく。
また、語彙力の養成に努めるとともに、話題として取り上げられたことについての基礎的知識を豊かにする。
英語学習では反復学習が重要になるため、授業の予習はしっかりと行い、提出物はしっかりとやってくる。
わからないところはそのままにせず、教員の説明を聞いたり、質問するなどしてその時間内に理解できるようにすること。

担当教員	高橋未希
授業形態	講義・演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	1
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

前期の目標を下記の3点とする。

読解力：読解に必要な速読力や要点把握力を形成する。

語彙力：語彙力の増強に努める。

知識を深める：社会や文化について論じた英文を読むことで広い視野を形成する。

各回の内容

1. オリエンテーション Unit 1
2. Unit2
3. Unit 3
4. Unit4
5. Unit5
6. Unit6
7. Unit 1～6
8. 前半総括
9. Unit7
10. Unit8
11. Unit9
12. Unit10
13. Unit11
14. Unit12
15. 後半総括
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

指定された演習問題を予め解しておくこと。

小テストに向けて復習を怠らないこと。

* 語学学習では復習が重要なので、復習の時間を各自確保すること

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

小テスト：30%

テスト：60%

授業への参加態度：10%

教科書

" News Matter " (南雲堂)

参考文献

必要に応じて提示する。

英語

概要

編入試験および各種検定試験合格目標に、口頭表現発表に必要な力および英作文作成力を養成する。(英検2級～準1級レベル)
また、語彙力の養成に努め、話題として取り上げられたことについての基礎的知識を豊かにする。
本授業は1時間に3つの単元を1度に扱うことを前提としているため、わからないところはそのままにせず、教員の説明を聞いたり、質問するなどしてその時間内に理解できるようにすること。
また、出された課題は期日までに必ず提出すること。

担当教員	高橋未希
授業形態	講義・演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	1年生
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

前期の目標を下記の3点とする。

視野を広げる：自分の身近なものから社会問題について意見を考えることで広い視野を形成する。

語彙力：英語プレゼンテーションに必要な語彙力や熟語力を増強する

英文構成力：文法事項の理解の他、論理的に意見を伝えるために必要な構成を学ぶ

表現力：非言語コミュニケーションや他のメディア媒体を用いた表現技術の獲得に勤める。

各回の内容

1. オリエンテーション Chapter 1・2・3 (導入)

2. Chapter 1・2・3 (発展)

3. Chapter 1・2・3 (応用)

4. まとめ [国旗の描写を考える]

5. まとめ [国旗の描写を考える]

6. Chapter 4・5・6 (導入)

7. Chapter 4・5・6 (発展)

8. Chapter 4・5・6 (応用)

9. まとめ [物語の描写を考える]

10. まとめ [伝わるスピーチの構成について]

11. Chapter 7・8・9 (導入)

12. Chapter 7・8・9 (応用)

13. Chapter 10・11・12 (導入)

14. Chapter 10・11・12 (応用)

15. 前期 まとめ

準備学習(予習・復習等)

指定された課題を行い、発表に備えて十分にリハーサルを行うこと

小テストの対策を徹底的に行うこと

本文の音読を積極的に行うこと

発表課題の作成を規定に準じて創作してくること

* 語学学習では復習が重要なので、復習の時間を各自確保すること

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

小テスト(ディクテーション&リスニングテスト) : 30%

活動ごとの英作文課題 30%

期末のレポート課題 30%

課題発表の姿勢・授業への取り組み 10%

教科書

This is My Presentaion(桐原書店)

参考文献

必要に応じて指示する。

本科目を履修する際、英語力に不安を感じている場合は英語 を合わせて履修することを薦める。

英語

概要

英文和訳に取り組み、編入試験で問われる基礎的な記述力・読解力・構文分析力を涵養する。合わせて単語の増強に努めることで、語学力の底上げを図る。

担当教員	高橋未希
授業形態	講義・演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	1
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

複雑な英文を読み解く際に必要な語彙力・文法力・構文分析力を中心に精読力の向上を図る。
日本語での適切な表現を学び、記述力の向上に努める。
単語の増強に努める。

各回の内容

1. オリエンテーション/ 英文の骨子をつかむ
2. 英文和訳演習（主語と述語動詞の見極め：基礎）
3. 英文和訳演習（主語と述語動詞の見極め：応用）
4. 英文和訳演習（主語と述語動詞の見極め：実践）
5. 英文和訳演習（分詞：基礎）
6. 英文和訳演習（分詞：応用）
7. 英文和訳演習（分詞：実践）
8. まとめ
9. 英文和訳演習（形容詞の後置修飾：基礎）
10. 英文和訳演習（形容詞の後置修飾：応用）
11. 英文和訳演習（分詞構文：基礎）
12. 英文和訳演習（分詞構文：応用）
13. 英文和訳演習（総合問題演習）
14. 英文和訳演習（総合問題演習）
15. まとめ

準備学習（予習・復習等）

指定された演習問題を予め解いておくこと。

単語テストについての学習を行うこと

学内・学外で自主課題に積極的に取り組むこと。

* 語学学習では復習が重要なので、復習の時間を各自確保すること

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

小テスト：30%

テスト：60%

授業への参加態度：10%

教科書

適宜プリントを配布する。

参考文献

必要に応じて指示する。

英語

概要

編入試験を目標に、英文読解に必要な力を養成する。
 国立大学入試問題に相当する英文を扱いながら、読解に必要な基本的な知識および読解力をつけていく。
 また、語彙力の養成に努めるとともに、話題として取り上げられたことに関しての基礎的知識を豊かにする。
 英語学習では反復学習が重要になるため、授業の予習はしっかりと行い、提出物はしっかりとやってくること。
 わからないところはそのまませず、教員の説明を聞いたり、質問するなどしてその時間内に理解できるようにすること。

担当教員	高橋未希
授業形態	講義・演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	1年生
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

目標を下記の3点とする。

読解力：読解に必要な速読力や要点把握力を形成する。

語彙力：語源を生かした語彙力の増強に努める。

知識を深める：社会や文化について論じた英文を読むことで広い視野を形成する。

各回の内容

1. オリエンテーション / 英文の構造について
2. パラグラフについて
3. 中文読解演習（環境）
4. 中文読解演習（環境）
5. 長文読解演習（環境）
6. 長文読解演習（社会）
7. 長文読解演習（社会）
8. まとめ
9. 長文読解演習（国際）
10. 長文読解演習（国際）
11. 長文読解演習（経済）
12. 長文読解演習（経済）
13. 長文読解演習（教育）
14. 長文読解演習（教育）
15. まとめ

準備学習（予習・復習等）

指定された演習問題を予め解しておくこと。

小テスト対策を十分に行うこと

学内・学外で自主課題に積極的に取り組むこと。

* 語学学習では復習が重要なので、復習の時間を各自確保すること

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

授業態度 20%

試験 60%

単語テスト 20%

教科書

適宜配布を行う

参考文献

必要に応じて配布する。

履修の際は英語 を合わせて受講することを推奨する。

韓国語

概要

韓国語は語彙と語順が日本語と似ているため、日本語を話す人にとってもっとも学びやすい外国語である。授業では、初級レベルの文法や文型を身につけ、それらを用いて簡単な会話や作文ができるようになることを目指す。質問の仕方や答え方を身につけたり、自己紹介や買い物、食事などの場面で使える簡単な表現を学び、受講生が韓国語及び韓国文化に親しみを感ずるように手助けをする。

担当教員	梁 姫淑
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	全1,2年生
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

ハングルの文字を正しく書き、正確に発音できる。
挨拶や自己紹介などの基礎的な会話ができる。
新出語彙を使って短い文を作ることができる。
韓国語学習を通じて韓国の文化に触れる。
キーボードでハングルを打つことができる。

各回の内容

1. オリエンテーション(ハングルの基本構造について)
2. 母音
3. 複合母音
4. 子音
5. バッチム
6. <自己紹介>~ / (は)~ / (です/ですか)
7. <否定文> /가(~が) (ではない)
8. <用言文>用言+ /ㅁ (です、ます)、助詞の使い方
9. 動詞、用言+ /
10. 指示詞、漢数詞
11. 時期や時刻の表現
12. 動詞や形容詞の否定文
13. 動詞+ / (~てください)
14. ハングルキーボードの打ち方
15. まとめ
16. 試験

準備学習(予習・復習等)

毎回の授業内容をきちんと復習する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

出席・授業態度：30%、ミニテストと提出物：10%、期末テストの成績：60%

教科書

崔柄珠著『おはよう韓国語1』朝日出版社

参考文献

授業内で指示する

中国語

概要

発音、文法、姓名の表現、判断、程度、行為、時間、所有、存在、経験などの表現。会話、ドリル、小テスト、生活習慣、食文化、考え方の違い。

担当教員	叶 根青
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	全学生
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

皆さんが楽しみながら、豊かな中国語の表現を身につけ、中国語でコミュニケーションする喜びを感じる。その言葉話す人々の歴史、文化、生活を知り、さらに新しい自己を発見し、人生の目標や友人と会う事と国際交流、理解、平和に役に立つのを願う。

各回の内容

1. 簡単なあいさつ、簡体字、声調（第1,2課） 毎回練習問題あり
2. 発音編（子音、母音）会話を練習（第3,4,5課）
3. 疑問文、反復疑問文、動詞、形容詞（第5,6,7課）
4. 名前を尋ねる、自己紹介、代名詞、疑問詞（第8,9課）
5. 会話文、副詞、量詞、動詞（第10,11課）
6. 家族の構成、疑問詞“几”、カレンダーの、、、（第12,13課）
7. 月、日、曜日、時間の言い方（第14,15課）
8. 小テスト
9. 疑問詞“怎么”“怎么”、文末の“了”、年齢を尋ねる、ちょっと・・・する（第16,17課）
10. 疑問詞“多少”、値段の言い方、数の数え方（第18課）
11. 介詞“給”、語気助詞“吧”、文末の“了”、目的語を2つとれる動詞（第19課）
12. 介詞“在”、“比”、語気助詞“的”（第20課）
13. 介詞“离”、“从”、時間の量の表し方（第21課）
14. “会”“能”、“可以”の助動詞（第22課）
15. まとめ
16. テスト

準備学習（予習・復習等）

授業内容の宿題プリントを出し、次の授業に提出する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

テスト90%、授業態度5%、宿題提出率5%

教科書

小川郁夫 著『初級中国語 教科書+ドリル』白帝社

参考文献

なし

ベーシックスキルズ

概要

高校生から短大生への転換をするための導入教育として大学生にとって基礎的な「学習スキル」と「日本語力」の習得をする。また、キャリア形成を行うための初年次教育として位置づけられ、キャリア形成にとって重要な「コミュニケーション力」の習得する。

担当教員	山野・後藤
授業形態	演習
学期	集中
必修・選択の別	必修
対象学生	全1年生
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

大学生として基礎的な「学習スキル」と「日本語力」の習得ができる。また、キャリア形成にとって重要な「コミュニケーション力」の習得ができる。

各回の内容

1. コミュニケーションワークショップ 1日 90分4回分の授業
2. マインド・マップ 1日 90分×4回分の授業
3. レポート教室 0.5日 90分×2回分の授業
4. レポート教室
5. レポート教室
6. レポート教室
7. レポート教室
8. 「日本語検定」の試験時間を1回分の授業とする(1回目受験料は学校負担)。不合格者には補完教育として補習を実施する。

準備学習（予習・復習等）

6月に実施する日本語検定の試験に向けて、入学前教育として配布されたテキストとを熟読し準備学習を行う。さらに、日本語のe-learningを行う。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

「コミュニケーションワークショップの振り返り10点満点。「日本語検定」試験結果 准4級 25点 4級 30点 准3級 35点 3級 40点 准2級 45点 2級以上 50点。マインド・マップの課題の評価 20点満点。レポート教室課題の評価 30点満点。総計100点以上は100点とする。

教科書

日本語検定試験テキスト

参考文献

必要に応じ、紹介する。

キャリアデザイン

概要

選択科目であるが、履修することが望ましい。
キャリアデザイン ～ で、連続する科目の一つ。
全体を通して、ワークキャリア・ライフキャリアを考え、卒業後の進路を明確にするとともに、日本語力等を含む社会人基礎力を、主体的に学ぶ力を養う。

担当教員	加藤竜哉 他
授業形態	講義・演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	全1年生
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

学業社会から就業社会へのブリッジを行うために、キャリアデザインの必要性を理解し、将来のライフデザインの基礎を築くことができる。
各自のスキルに合った日本語検定試験の準備を主体的に行うことができる。
汎用的なスキルの現状と改善計画を作成することができる。

各回の内容

1. オリエンテーション、汎用ルーブリックによる自己評価、日本語検定模擬試験の実施
2. キャリアデザインの意味と、進路、土台の基礎力の必要性、日本語能力アップ演習 1
3. 日本語能力アップ演習 2
4. 日本語能力アップ演習 3
5. 日本語能力アップ演習 4
6. 日本語能力アップ演習 5
7. 日本語能力アップ演習 6
8. 日本語能力アップ演習 7
9. 日本語能力アップ演習 8
10. 社会で普遍的に求められる能力 = コンピテンシーを測る (PROG診断)
11. 働くとは：進路の詳細スケジュール、数的思考能力をつける
12. 学科・専攻・コースごとに働くイメージを考える
13. 自分のコンピテンシーを知り、改善計画を練る
14. キャリアプラン・ライフプラン
15. まとめ、期末レポート課題発表

準備学習（予習・復習等）

事前：他の履修科目で関連する事柄を整理しておく。
事後：指示された課題を期日までに提出する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

毎回の振り返り（15回×5点）＝75%、課題作成＝25%

教科書

大学生のための日本語問題集，ナカニシヤ出版（合格時に郵送済）
必要に応じてプリント等配布する。

参考文献

第1回目、本学図書館の蔵書の中から関連する書籍一覧を紹介するので、都度読んでほしい。

キャリアデザイン

概要

卒業後の進路(一般企業への就職、公務員、銀行系、四年生大学や専門学校への進学)を見据え、社会人として身につけておくべき素養の中で、特に基礎学力を向上させることを目的とする。それぞれの進路に合わせてコースを設定予定であり、詳細は追って指示する。なか、全体で講義を行う場合もあるので、適宜掲示を見ること。

担当教員	全教員
授業形態	講義・演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	全1年生
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

自己の進路を見据え、主体的に参加し学習を進めることができる。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. 社会人基礎力演習1
3. 社会人基礎力演習2
4. 社会人基礎力演習3
5. 社会人基礎力演習4
6. 社会人基礎力演習5
7. 社会人基礎力演習6
8. 社会人基礎力演習7
9. 社会人基礎力演習8
10. 社会人基礎力演習9
11. 社会人基礎力演習10
12. 社会人基礎力演習11
13. 社会人基礎力演習12
14. 社会人基礎力演習13
15. 社会人基礎力演習14

準備学習（予習・復習等）

1年前期の学習を振り返り、自己の強み・弱みを把握しておく。
選択したコースで指示された事前・事後学習を行う。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

毎回の参加態度、講義・演習の進捗状況等、学習成果を各回5点×15回を100点換算し、その結果を踏まえて、総合的に判断し評価する。

教科書

なし
適宜資料を配布

参考文献

都度紹介する。

ビジネス実務

概要

担当教員	加藤竜哉他
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	全学科 1年
時間数	90分×15回
単位数	2

ビジネス実務士資格の必修科目
 選択であるが、進路（編入・就職）を考え、限りなく履修することが望ましい

ビジネス実務を基礎から学習する。ビジネス実務 & を通して、実社会のマナー獲得と、進路（就職・編入）面接対応スキルを学び、コミュニケーション力を高める。

eラーニングにより、SPIの基礎学習を行う

目標

ビジネス社会で求められる基礎的なマナーを、講義や演習、実践問題を通して習得する。そのうえで、企業が求めている人材や働くことの意味を考え、自分の言葉で説明することができる。
 実社会で求められている数的解決能力をeラーニングで身につけることができる。

各回の内容

1. 企業が求める人材とビジネスマナーの必要性、eラーニングの学習：集合授業、次週までの課題有
2. 服装と身だしなみ、立ち居振る舞い：制服着用（2回目から14回目まではクラスに分かれて実施）
3. 基本的な挨拶、就業中のルール：ミニテスト有
4. コミュニケーションの概要とビジネス会話
5. 言葉づかいと口癖
6. 敬語、接遇用語、クッション言葉
7. 敬語の実際：ミニテスト有
8. 報告・連絡・相談の重要性、会議の進め方：ミニテスト有
9. 訪問時の基本、アポイントメント、名刺交換：制服着用
10. 来客対応、エレベータ、お見送り、案内、応接室でのマナー：制服着用
11. 電話対応のポイント、電話をかける：ミニテスト有
12. ビジネスメールの基本マナー：ミニテスト有
13. ビジネス文書の基本
14. ビジネス文書の実践（お礼状と封筒）：ミニテスト有
15. 後期授業に向かってBCSAを受診：コンピュータ教室
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

テキストの指定範囲を読み授業に備える。日頃から自分の言動を意識する。

事前学習：次回学習する該当ページを事前に精読してくる。

事後学習：振り返りシートの振り返り、小テストなどの復習。普段の生活に学んだことを取り入れる

eラーニングによる、主体的学習

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

- 1) 毎回の振り返りシート30%（各回5点×15回を満点として30%換算する）
- 2) ミニテスト10%（全体の満点合計を100%として10%換算する）
- 3) 期末テスト40%（テストの満点を100%として40%に換算する）、
- 4) eラーニング(eせいたんスタンダードの学習)10%（学習時間5時間以上を100%として全体の10%に換算する）
- 5) eラーニング（基本のキ）10%（すべて終了で10%）

教科書

- ・これだけ知っておけば大丈夫!「ビジネスマナー」のきほん 翔泳社
- ・本学配布のキャリアハンドブック

参考文献

その都度、授業で紹介する。

ビジネス実務

概要

担当教員	加藤竜哉他兼任教員
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	全学科 1年
時間数	90分×15回
単位数	2

ビジネス実務士資格の必修科目
 選択であるが、進路（編入・就職）を考え、限りなく履修することが望ましい

ビジネス実務を基礎から学習する。ビジネス実務 & を通して、実社会のマナー獲得と、進路（就職・編入）面接対応スキルを学び、コミュニケーション力を高める。
 特にビジネス実務 では、より実践的な演習と、自己のコミュニケーション能力を高めることに主眼を置く。

eラーニングにより、ミニテスト等を実施する。

目標

前期の各種診断ツール結果等や演習を通じ、自己理解を深め、自分の強みを自分の言葉で表現できる。
 さらに、ビジネス社会の仕事の基本を講義と演習やグループワークを通して学習し、ビジネスの基礎となるコミュニケーションの考え方とスキルを身につける。卒業後の進路を確実に拓くための社会人基礎力を養うことができる。
 前期に診断したBCSA結果について、自己評価し、改善につなげることができる。

各回の内容

1. オリエンテーション、自己分析の必要性と先輩学生の失敗事例紹介、BCSA診断解説（課題有）
2. 自分の弱み・強みを知り、自己PRへつなく
3. 自己PRを改善する（課題有）
4. エントリーシート(特にOpenES)と履歴書
5. 電話対応演習（eラーニングによる課題有）
6. 立ち居振る舞い、面接訓練と相互評価・改善（制服着用）
7. 物理的環境の整備（ミニCBT有）
8. 信頼獲得と維持（制服着用）（ミニCBT有）
9. 言語・非言語の効果的使用（ミニCBT有）
10. 心理的環境の管理（ミニCBT有）
11. 表現方法の調整（ミニCBT有）
12. 共感、質問と応答、共感情報の発信（ミニCBT有）
13. アクティブリスニング：相手からのメッセージへの対応（ミニCBT有）
14. コミュニケーションの準備と評価（ミニCBT有）、期末試験のための学習について
15. 立ち居振る舞い総合演習、キャップ・ガウン着用時の留意事項演習
16. 試験(試験日は、試験・補講期間日程として掲示)

準備学習（予習・復習等）

事前学習：テキストの指定範囲を必ず精読し、授業に備える。

事後学習：振り返りシートの振り返り、小テストや確認テストなどの復習。学習した内容を、普段の生活に取り入れ、日頃から自分の言動の変化を意識し、PDCAサイクルを回す。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

期末テスト60%以下は、再試験

60%以上について、改めて

- 1) 毎回の振り返りシート 30%（各回5点×15回を満点として30%換算する）
- 2) 理解度確認用eラーニングテスト15%(全体の満点合計を100%として15%換算する)
- 3) 課題提出 15%（3つの課題）
- 4) 期末テスト 40%（テストの満点を100%として40%に換算する）

教科書

- ・『ザ・コミュニケーション 気づいたわかる、できて身につく社会で輝く9つのスキル』翔泳社、2015年
- ・ビジネス実務 で使用したテキスト、本学作成のキャリアハンドブック
- ・必要に応じプリント配布

参考文献

マイルズ・L・バターソン著、大坊郁夫監修訳、ことばにできない想いを伝える - 非言語コミュニケーションの世界 - , 誠信書房, 2013

情報演習 (CE)

概要

【キャリア教養学科】

高校までのPCスキルを再確認しながら、自身の弱点を補強する。実社会のデファクトスタンダードとなっているOffice系アプリケーションを中心に演習を行う。また、情報倫理や情報セキュリティの基礎を学習し、普段の生活の中での情報機器を使う際に必要な情報リテラシーを習得する。

担当教員	加藤竜哉他
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	CE1年生
時間数	90分×15回、期末試験
単位数	2

目標

- 1) 文書作成技法、表計算作成技法、プレゼンテーション技法を横断的に演習し、単なる操作演習ではない実社会においてICT活用能力を獲得するための基本スキルを習得することができる。
- 2) 情報倫理Webテストで35問中32問(90%)解くことができる。
- 3) 正しい指使いでタイピングをし、10分間で350字以上入力することができる。

各回の内容

1. 情報の基礎力確認テスト実施、タイピング能力テスト、ネット検索及び情報モラル(情報倫理Webテストについて)
2. 学内ネットワークの利用と留意点、タイピング能力
3. Wordの基本(1)
4. Wordの基本(2)
5. 見やすいスライドを作る,スライド作成のテクニック
6. プレゼンテーション資料の作成
7. 表を使い文書をわかりやすくまとめる
8. ビジネス文書作成のポイントを押さえる(1)
9. ビジネス文書作成のポイントを押さえる(2),図等を活用して魅せる文書を作成する
10. Excelの基本
11. 仕事で利用する関数を使いこなす(1)
12. 仕事で利用する関数を使いこなす(2)
13. 伝えるグラフを作る(1)
14. 伝えるグラフを作る(2)
15. シート操作、データベースを活用する,試験範囲,課題提出について(再)
16. 期末試験

準備学習(予習・復習等)

<事前学習> 各回の前に該当テキストの読み込みと、疑問点の抽出

<事後学習> 指示されたファイルの作成と保存

<主体的学習>

・情報倫理ハンドブックの自学自習と合格。(7月末までに90%以上正解で合格。何度でも受験可。テキストを見てもよい)およびタイピングの練習

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

7月末までに情報倫理webテスト合格している者が前提：不合格者再履修

- 1) 正しい指使いで10分間のタイピング350字以上(350字未満0%、350字~450字10%、450字~550字15%、550字以上20%)
- 2) 課題作成40%、期末試験40%(実践課題作成30%、知識確認10%)

情報の基礎学力確認テストは、自己を知るために行い、評価には使用しない。

教科書

実践ドリルで学ぶOffice活用術2013対応 Word・Excel・PowerPoint2013 演習問題全150題(noa出版)
必要に応じプリント配布

参考文献

都度紹介する。

情報演習 (CE)

概要

キャリア教養学科学学生対象の情報演習

情報演習 履修合格者対象科目

講義と演習を通し、実社会で活用できるICTスキル獲得を目指す。情報演習の基礎的位置づけ。Webサイトを使った確認テストを都度行う。また、情報演習基礎(情報演習 相当)の課題作成を行い、スキルを定着させる。

担当教員	内海, 菅野
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分×15回、期末試験
単位数	2

目標

実践的な問題解決スキルを、収集・分析・整理・表現・運用の課題を通して身に付けることができる。

情報演習基礎(情報演習 相当)の課題作成を通し、基本的スキルの範囲が確実にできる。

各回の内容

1. 情報検索と進路で必要な力
2. 情報運用、eラーニング学習(非言語処理能力)と評価
3. 数値分析(1): データの加工
4. 数値分析(2): データの分析
5. データベース
6. ファイル・データ管理
7. インターネットコミュニケーション
8. 情報発信のルール
9. 文書表現
10. ビジュアル表現
11. 成功するプレゼンテーション
12. 発表資料の準備
13. 発表資料の作成
14. 発表模擬演習と評価
15. まとめ
16. 試験

準備学習(予習・復習等)

『事前学習』教科書の各セクションが1回に相当するのでセクションを予習してくること。

『事後学習』授業内容の復習、課題の作成、CBTによる確認テストの実施

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

課題提出30%、Sectionテスト25%(CBT:理解度把握システム(Nestシステム)を利用)、模擬演習25%(CBTテスト含む)、情報演習基礎(情報演習 相当)の課題作成20%

教科書

- ・考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (2017年11月発行第4版), noa出版 株式会社ワークアカデミー
- ・情報演習 のテキスト
- ・本学作成資料

参考文献

都度紹介する。

情報演習 (D)

概要

【食物栄養専攻】

高校までのPCスキルを再確認しながら、自身の弱点を補強する。実社会のデファクトスタンダードとなっているOffice系アプリケーションを中心に演習を行う。また、情報倫理や情報セキュリティの基礎を学習し、普段の生活の中での情報機器を使う際に必要な情報リテラシーを習得する。

担当教員	加藤竜哉他
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	D1年生
時間数	90分×15回、期末試験
単位数	2

目標

- 1) 文書作成技法、表計算作成技法、プレゼンテーション技法を横断的に演習し、単なる操作演習ではない実社会においてICT活用能力を獲得するための基本スキルを習得することができる。
- 2) 情報倫理Webテストで35問中32問(90%)解くことができる。
- 3) 正しい指使いでタイピングをし、10分間で350字以上入力することができる。

各回の内容

1. 情報の基礎力確認テスト実施、タイピング能力テスト、ネット検索及び情報モラル(情報倫理Webテストについて)
2. 学内ネットワークの利用と留意点、タイピング能力
3. Wordの基本(1)
4. Wordの基本(2)
5. 見やすいスライドを作る,スライド作成のテクニック
6. プレゼンテーション資料の作成
7. 表を使い文書をわかりやすくまとめる
8. ビジネス文書作成のポイントを押さえる(1)
9. ビジネス文書作成のポイントを押さえる(2),図等を活用して魅せる文書を作成する
10. Excelの基本
11. 仕事で利用する関数を使いこなす(1)
12. 仕事で利用する関数を使いこなす(2)
13. 伝えるグラフを作る(1)
14. 伝えるグラフを作る(2)
15. シート操作、データベースを活用する,試験範囲,課題提出について(再)
16. 期末試験

準備学習(予習・復習等)

<事前学習> 各回の前に該当テキストの読み込みと、疑問点の抽出

<事後学習> 指示されたファイルの作成と保存

<主体的学習>

・情報倫理ハンドブックの自学自習と合格。(7月末までに90%以上正解で合格。何度でも受験可。テキストを見てもよい)およびタイピングの練習

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

7月末までに情報倫理webテスト合格している者が前提：不合格者再履修

- 1) 正しい指使いで10分間のタイピング350字以上(350字未満0%、350字~450字10%、450字~550字15%、550字以上20%)
- 2) 課題作成40%、期末試験40%(実践課題作成30%、知識確認10%)

情報の基礎学力確認テストは、自己を知るために行い、評価には使用しない。

教科書

実践ドリルで学ぶOffice活用術2013対応 Word・Excel・PowerPoint2013 演習問題全150題(noa出版)

必要に応じプリント配布

参考文献

都度紹介する。

情報演習 (D)

概要

生活科学科1年生対象

情報演習 A 履修合格者対象科目

実社会で最も利用されているExcelを使用し、実務中心の演習を行いながら、表計算作成能力を向上させる。

演習を着実に積み上げ、“わかるつもり”を“わかる”へ、“できるつもり”を“できる”にする。

担当教員	兼任教員を予定
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	食物栄養専攻1年生
時間数	90分×15回、期末試験
単位数	2

目標

実社会で利用頻度の高い表計算作成ソフトを使い演習を行う。「効率性」と「誰のために何を作るのか」を常に意識できる。(栄養士の視点での活用についても適宜解説)

各回の内容

1. 集計表：学習の方向。実社会での表計算事例、セルの書式、グラフの基本
2. 商品別販売状況：データベースの並べ替え、絶対参照を利用する意義
3. 週別販売状況：スパークラインの利用、平均と最大・最小を求める意義
4. 売上達成率表：四捨五入関数の利用、グラフの編集
5. 保健室利用状況表：順位関数を利用する意義
6. 売上表：グラフの編集、効率的な関数の利用
7. テスト成績表：バランスを見るグラフ作成、シートの編集
8. 勤務状況表：データの数え方、並べ替えとテーブルスタイル
9. 経費内訳表：関数及びセルのスタイル
10. 売上比較表
11. 都市別世代別人口表
12. 販売数量表
13. 生活費の年間集計表
14. 総合演習
15. まとめ
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

<履修前> 情報演習 1 A のExcel部分の復習を行い、不明点・不安な点を整理しておく。

<授業前学習> 各回の演習問題を行って、わからない・わかるつもり、できない・できるつもりが何かを明らかにする。

<授業後学習> 毎回の振り返りと課題の作成・保存

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

毎回の課題作成（指示された課題の提出×課題数を100%として60%換算）60%、期末試験40%

教科書

- ・『Excel表計算処理技能認定試験 3級問題集（2013対応）』株式会社サーティファイ 2013/8
- ・情報演習 1 Aのテキスト
- ・本学作成資料

参考文献

その都度授業で紹介する。

情報演習 (CH)

概要

【こども保育コース】

高校までのPCスキルを再確認しながら、自身の弱点を補強する。実社会のデファクトスタンダードとなっているOffice系アプリケーションを中心に演習を行う。また、情報倫理や情報セキュリティの基礎を学習し、普段の生活の中での情報機器を使う際のセキュリティスキルを習得する。

担当教員	加藤竜哉他兼任教員
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	CH1年生
時間数	90分×15回、期末試験
単位数	2

目標

- 1) 文書作成技法、表計算作成技法、プレゼンテーション技法を横断的に演習し、単なる操作演習ではない実社会においてICT活用能力を獲得するための基本スキルを習得することができる。
- 2) 情報倫理Webテストで35問中32問(90%)解くことができる。
- 3) 正しい指使いでタイピングをし、10分間で350字以上入力することができる。

各回の内容

1. 情報の基礎力確認テスト実施、タイピング能力テスト、ネット検索及び情報モラル(情報倫理Webテストについて)
2. 学内ネットワークの利用と留意点、タイピング能力
3. Wordの基本(1)
4. Wordの基本(2)
5. 見やすいスライドを作る,スライド作成のテクニック
6. プレゼンテーション資料の作成
7. 表を使い文書をわかりやすくまとめる
8. ビジネス文書作成のポイントを押さえる(1)
9. ビジネス文書作成のポイントを押さえる(2),図を活用して魅せる文書を作成する
10. Excelの基本
11. 仕事で利用する関数を使いこなす(1)
12. 仕事で利用する関数を使いこなす(2)
13. 伝えるグラフを作る(1)
14. 伝えるグラフを作る(2)
15. シート操作、データベースを活用する,試験範囲,課題提出について(再)
16. 期末試験

準備学習(予習・復習等)

<事前学習> 各回の前に該当テキストの読み込みと、疑問点の抽出

<事後学習> 指示されたファイルの作成と保存

<主体的学習>

・情報倫理ハンドブックの自学自習と合格。(7月末までに90%以上正解で合格。何度でも受験可。テキストを見てもよい)およびタイピングの練習

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

7月末までに情報倫理webテスト合格している者が前提：不合格者再履修

- 1) 正しい指使いで10分間のタイピング350字以上(350字未満0%、350字~450字10%、450字~550字15%、550字以上20%)
 - 2) 課題作成40%、期末試験40%(実践課題作成30%、知識確認10%)
- 情報の基礎学力確認テストは、自己を知るために行い、評価には使用しない。

教科書

『実践ドリルで学ぶOffice活用術2013対応 Word・Excel・PowerPoint2013 演習問題全150題』noa出版
必要に応じプリント配布

参考文献

その都度、授業で紹介する。

情報演習 (CH)

概要

生活科学科1年生対象

情報演習 A 履修合格者対象科目

実社会で最も利用されているExcelを使用し、実務中心の演習を行いながら、表計算作成能力を向上させる。

演習を着実に積み上げ、“わかるつもり”を“わかる”へ、“できるつもり”を“できる”にする。

担当教員	加藤竜哉他兼任教員
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	こども保育コース1年生
時間数	90分×15回、期末試験
単位数	2

目標

実社会で利用頻度の高い表計算作成ソフトを使い演習を行う。「効率性」と「誰のために何を作るのか」を常に意識できる。(保育士の視点での活用についても適宜解説)

各回の内容

1. 集計表：学習の方向。実社会での表計算事例、セルの書式、グラフの基本
2. 商品別販売状況：データベースの並べ替え、絶対参照を利用する意義
3. 週別販売状況：スパークラインの利用、平均と最大・最小を求める意義
4. 売上達成率表：四捨五入関数の利用、グラフの編集
5. 保健室利用状況表：順位関数を利用する意義
6. 売上表：グラフの編集、効率的な関数の利用
7. テスト成績表：バランスを見るグラフ作成、シートの編集
8. 勤務状況表：データの数え方、並べ替えとテーブルスタイル
9. 経費内訳表：関数及びセルのスタイル
10. 売上比較表
11. 都市別世代別人口表
12. 販売数量表
13. 生活費の年間集計表
14. 総合演習
15. まとめ
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

<履修前> 情報演習 1 A のExcel部分の復習を行い、不明点・不安な点を整理しておく。

<授業前学習> 各回の演習問題を行って、わからない・わかるつもり、できない・できるつもりが何かを明らかにする。

<授業後学習> 毎回の振り返りと課題の作成・保存

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

毎回の課題作成（指示された課題の提出×課題数を100%として60%換算）60%、期末試験40%

教科書

- ・『Excel表計算処理技能認定試験 3級問題集（2013対応）』株式会社サーティファイ 2013/8
- ・情報演習 1 Aのテキスト
- ・本学作成資料

参考文献

その都度授業で紹介する。

体育講義

概要

担当教員	堺 秋彦
授業形態	講義
学期	前期集中
必修・選択の別	選択
対象学生	全1、2年
時間数	90分×7.5回（集中）
単位数	1

体育、運動生理学について講義をし、その後講義の内容に基づきクイズ形式で授業を進める。体育の「歴史、概念、意義、ねらい」や「人間の発達段階」、「体力の概念」を知り、運動と健康について考える。運動が心身の健康のためにどれだけ大切なのかを理解したうえで、自分自身の健康をはじめ将来母親になったときに、わが子の健康をも考えることができるようにする。また、最後にクイズで出した問題の中からテストする。授業は2日に分けた集中でおこなう。

目標

体育の歴史を通して、今日ある体育の意義を知り、何を指した教科なのかを理解することができる。また、人間の身体の構造や機能、体力の概念を理解し、運動が心身に与える効果を知り実践することができる。

各回の内容

1. 体育の歴史と定義
2. 体育の意義と内容
3. 現代における体育の課題
4. 人間の発達（スキヤモンの発育型）
5. 脳の働き 体力の概念 運動と健康 健康の定義
6. 生活習慣病について 運動の効果 生涯スポーツについて
7. テスト
8. まとめ

準備学習（予習・復習等）

- ・規則正しい生活習慣を心掛け、自分の身体を意識する。
- ・復習として、配布した参考資料並びに「身体」「発育発達」「運動」に関する内容を、本を読んだり、インターネットで調べ、「身体の特徴」と「運動」の関係性について理解を深める。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

- 課題（クイズ）20%
テスト80%

教科書

なし。授業で資料を配布する。

参考文献

幼稚園教育要領、小学校教育指導要領、中学校教育指導要領（保健体育編）、高等学校教育指導要領（保健体育編）

体育実技

概要

「スポーツ遊び」を通じて、身体を動かす楽しさや心地よさを実感し自分の健康を意識することを目指し授業をおこなう。本授業は、技能向上を目指したのではなく「運動を楽しむ」ことを目指した授業であるので、運動が苦手な人、日頃運動不足な人を歓迎する。

担当教員	堺 秋彦
授業形態	実技
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	食物・キャリア1・2年生
時間数	15
単位数	1

目標

「スポーツ」は体育の教材であり、楽しくおこなうことが前提であることを理解したうえで、それぞれのスポーツや運動に含まれる「楽しさの要素」を感じ取りながら、からだを動かす楽しさと喜びを感じることができる。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. 基礎体力トレーニング・ゲーム1・スポーツ1
3. 基礎体力トレーニング・ゲーム2・スポーツ1
4. 基礎体力トレーニング・ゲーム3・スポーツ2
5. 基礎体力トレーニング・ゲーム4・スポーツ2
6. 基礎体力トレーニング・ゲーム5・スポーツ3
7. 基礎体力トレーニング・ゲーム6・スポーツ3
8. 基礎体力トレーニング・ゲーム7・スポーツ4
9. 基礎体力トレーニング・ゲーム・スポーツ(1班担当)
10. 基礎体力トレーニング・ゲーム・スポーツ(2班担当)
11. 基礎体力トレーニング・ゲーム・スポーツ(3班担当)
12. 基礎体力トレーニング・ゲーム・スポーツ(4班担当)
13. 基礎体力トレーニング・ゲーム・スポーツ(5班担当)
14. 基礎体力トレーニング・ゲーム・スポーツ(6班担当)
15. まとめ

準備学習(予習・復習等)

規則正しい生活習慣を心がけると共に、毎日30分以上の歩行を実施する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

運動量(各回の内容に基づいて、適切に身体を動かしているかを評価する)50%
記録表(心と体の記録表を適切に記述できているかを評価する)50%

教科書

なし。必要に応じて資料を配布する。

参考文献

その都度授業で紹介する。

体育実技

概要

「スポーツ遊び」を通じて、身体を動かす楽しさや心地よさを実感し自分の健康を意識することを目指し授業をおこなう。本授業は、技能向上を目指したのではなく「運動を楽しむ」ことを目指した授業であるので、運動が苦手な人、日頃運動不足な人を歓迎する。

担当教員	堺秋彦
授業形態	実技
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	こども保育1年生
時間数	15
単位数	1

目標

「スポーツ」は体育の教材であり、楽しくおこなうことが前提であることを理解したうえで、それぞれのスポーツや運動に含まれる「楽しさの要素」を感じ取りながら、からだを動かす楽しさと喜びを感じることができる。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. 基礎体力トレーニング・ゲーム1・スポーツ1
3. 基礎体力トレーニング・ゲーム2・スポーツ1
4. 基礎体力トレーニング・ゲーム3・スポーツ2
5. 基礎体力トレーニング・ゲーム4・スポーツ2
6. 基礎体力トレーニング・ゲーム5・スポーツ3
7. 基礎体力トレーニング・ゲーム6・スポーツ3
8. 基礎体力トレーニング・ゲーム7・スポーツ4
9. 基礎体力トレーニング・ゲーム・スポーツ(1班担当)
10. 基礎体力トレーニング・ゲーム・スポーツ(2班担当)
11. 基礎体力トレーニング・ゲーム・スポーツ(3班担当)
12. 基礎体力トレーニング・ゲーム・スポーツ(4班担当)
13. 基礎体力トレーニング・ゲーム・スポーツ(5班担当)
14. 基礎体力トレーニング・ゲーム・スポーツ(6班担当)
15. まとめ

準備学習(予習・復習等)

規則正しい生活習慣を心がけ、毎日30分以上の歩行を実施する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

運動量(各回の内容に基づいて、適切に身体を動かしているかを評価する)50%
記録表(心と体の記録表を適切に記述できているかを評価する)50%

教科書

なし。必要に応じて資料を配布する。

参考文献

その都度紹介する。

食育論

概要

食育は、将来の日本の健康栄養問題解決の一助となる可能性があり、近年ますます重要視されてきている。本講義は、現代の我が国における幼児・学童期における健康栄養問題、および小児疾患について理解し、症例を通して栄養管理計画書の作成、さらに栄養指導内容と食育内容の検討法について学ぶ。また、フードコーディネーターとして必要な知識・技術を学ぶ。

担当教員	齋藤 瑛介
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	食物栄養専攻1年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

幼児・学童期の栄養の特徴について理解する。 症例を通して、栄養管理計画書作成について学ぶ。 食育の内容について検討できるようになる。

各回の内容

1. 食育の意義と目的
2. 幼児期における健康・栄養・食習慣に関する問題
3. 学童期・思春期における健康・栄養・食習慣に関する問題
4. 小児疾患（1）
5. 小児疾患（2）
6. 学童期・思春期対象者の栄養管理計画の立案（小児肥満）
7. 学童期・思春期対象者の栄養管理計画の立案（摂食障害）
8. 食育だよりの役割と作成案作成
9. 食育だよりの作成
10. 食育だよりの作成
11. 食育だよりの発表
12. フードコーディネーター1 食空間のあり方
13. フードコーディネーター2 食空間と内装デザイン
14. フードコーディネーター3 食空間とテーブルコーディネーター
15. フードコーディネーター4 テーブルマナーとサービス
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

予習：教科書の指示されたところを事前に読んでくる。

復習：ノートテイクした内容と教科書を照らし合わせ、学習を深める。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

試験：50点、レポート：50点

教科書

辻とみ子・堀田千津子編『新版ヘルス21栄養教育・栄養指導論』医歯薬出版
佐藤和人他編『エッセンシャル臨床栄養学』医歯薬出版

参考文献

フードマネジメント（食品安全性論）

概要

世界と日本の社会状況の変化に伴い、私たちの食生活は大きく変わりつつあり、食の外部化が進んでいる。栄養士、フードサイエンティストとして、安全・安心かつ豊かな「食」を提供できるよう、衛生管理手法の理論と実践を学ぶ。

担当教員	畑 伸秀
授業形態	講義
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	食物栄養学専攻1年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

栄養士、フードサイエンティストは、安全・安心かつ豊かな「食」を提供するための役割を担っていることを理解する。
 食の外部化の現状・課題・対応方法について理解する。
 最新の食と健康・栄養情報を理解する。
 CCPの理論を理解し実践できるようになる。
 食品製造・商品開発の事例を理解する。

各回の内容

1. 食品の安全性と暮らし 栄養士・フードサイエンティストの役割
2. 食の外部化（1）冷凍食品の基本
3. 食の外部化（2）冷凍食品の応用
4. 食の外部化（3）冷凍食品と中食・外食 レポート提出（第2回～4回について）
5. 最新の食と健康・栄養情報（1）食と健康に関する講演会
6. 最新の食と健康・栄養情報（2）食と健康に関する講演会 レポート提出（第5回～6回について）
7. 農と食のコラボレーション 福島の農産物とそれを用いる商品開発（アグリフードEXPO東京2019見学）
8. 農と食のコラボレーション 福島の農産物とそれを用いる商品開発（アグリフードEXPO東京2019見学）
9. 農と食のコラボレーション 全国各地の農産物とそれを用いる商品開発（アグリフードEXPO東京2019見学）
10. 農と食のコラボレーション 全国各地の農産物とそれを用いる商品開発（アグリフードEXPO東京2019見学）
11. 農と食のコラボレーション まとめ レポート提出（第7回～11回について）
12. HACCP(1)衛生・品質管理の基本的考え方
13. HACCP(2) HACCPの概念と製造管理
14. 大量調理・給食管理での食品衛生の実際
15. 大量調理・給食管理での食品衛生の実際（最新厨房機器の活用）レポート提出（第12回～15回について）

準備学習（予習・復習等）

予習：指定された課題・テーマについて、授業前に文献・インターネットを通じて調べておくこと。

復習：各授業内容で学んだことを復習することを基本とし、毎回レポート提出を実施する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

レポート100%(25点 4回)

教科書

教科書はなし。各回の授業でプリント・資料を配布する。

参考文献

厚生労働省医薬・生活衛生局生活衛生・食品安全部監視安全課HACCP企画推進室(2015年10月発行)「食品製造におけるHACCP入門のための手引書」改訂版

親と子の広場実践演習

概要

親と子の広場やさくらっこ広場に参加し、親子との関わりや観察から、様々な授業での学びと関連付けて思考したり、実践したりする。振り返りでは、保育者としての関わり方や子どもの思いについてなど、他者との話し合いを通して多様な保育の視点を得る。

担当教員	長谷川美香
授業形態	演習
学期	通年
必修・選択の別	選択
対象学生	1年
時間数	15回
単位数	2

目標

親と子の広場やさくらっこ広場への参加を通し、体験的に子どもの発達について学び、地域の保護者の子育てニーズ、子育て支援の必要性に気付く。また、協働して学ぶ姿勢を身につけ、自分なりの課題を持ちながら、保育者として求められる知識や技能の基礎を養う。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. 地域の子育て支援広場の意義、子どもや保護者理解の重要性
3. 様々な視点からカンファレンスを行う
4. 様々な視点からカンファレンスを行う
5. 様々な視点からカンファレンスを行う
6. 様々な視点からカンファレンスを行う
7. 保育者としての役割とは まとめ
8. 親と子の広場やさくらっこ広場への参加
9. 親と子の広場やさくらっこ広場への参加
10. 親と子の広場やさくらっこ広場への参加
11. 親と子の広場やさくらっこ広場への参加
12. 親と子の広場やさくらっこ広場への参加
13. 親と子の広場やさくらっこ広場への参加
14. 親と子の広場やさくらっこ広場への参加
15. 親と子の広場やさくらっこ広場への参加
16. 8回分（4回広場へ参加、1回の参加で3時間のため1回につき2回の授業時間として数える）は、親と子の広場、
17. またはさくらっこ広場への参加を授業の出席として振替える。授業の開講期間（4～11月）で、それぞれが選んだ日に参加。

親と子の広場実践演習

準備学習（予習・復習等）

事前に自己課題、目標を持って親と子の広場やさくらっこ広場に参加し、参加後は、本授業内だけでなく、自身でも振り返りを行う。また、授業外でも親と子の広場やさくらっこ広場に参加することで、子ども理解や保護者理解がさらに深まる。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

最終レポート50%、提出物30%、カンファレンスなどグループ活動取り組みへの姿勢20%

教科書

特になし

参考文献

特になし